

「冬のいわきを堪能せよ！農村体験ツアー」開催

〔1月11日(土)～12日(日)〕



首都圏の大学生を対象に、いわき市田人町、四倉町、遠野町等を舞台とした1泊2日の農村体験ツアーを実施しました。

このツアーは当初10月に予定しており、台風19号の影響で一度中止となりましたが、「困難なときこそ若い人に来てもらって、田人の災害にも負けない姿を見てもらいたい」という地元の方の熱い思いもあり、日程を変えて1月にツアーを決行しました。

当日は、首都圏の13大学から19名の学生が参加し、凍み大根づくりや(株)ワンダーファームの施設見学・トマト狩り体験、(株)いわき遠野らぱんの食品加工場見学等の行程を通して、地元住民と交流を深めました。

田人町貝泊地区では、地域おこしに取り組む「貝泊コイコイ倶楽部」の10名の方のご協力のもと、大根を切って干す凍み大根づくりや、杵と臼を使った餅つきを体験しました。体験会場には、田人町の住民や東日本国際大学の学生など約10名の方が駆けつけ、参加大学生は地元住民と交流しながら冬の農村のゆったりとした雰囲気を楽しんでいました。その後、宿泊先の田人おふくろの宿で実施した地元住民との夕食交流会では、地酒や凍み大根を使った料理が振る舞われたほか、遠野地区青年会の皆さんによる「じゃんがら念仏踊り」が披露され、いわきの食文化や伝統文化への理解を深めました。

ツアーの締めくくりとしては、参加大学生がいわきの5年後の姿に想いを馳せて「未来新聞」を作成し、貝泊コイコイ倶楽部の蛭田一会長、いわき遠野らぱんの平子佳廣代表をはじめ、地元の方々に発表を聞いていただきました。参加大学生からは、「東京に帰ったら身近な人にいわきの魅力を伝えて、次は友達を連れて来たい」、「今度、いわき産の米や野菜を見かけたら購入する」などの声が聞かれました。

今回作った凍み大根は後日参加者の自宅に発送されるほか、2月には東日本国際大学の学生が貝泊の味噌漬けを販売する都内のイベントに首都圏大学生が合流するなど、今後も交流が継続していくことが期待されます。(企画部)



(凍み大根づくり体験の様子)



(「未来新聞」発表の様子)